

姿を消しつつある名大祭の伝統企画

感染症流行による危機を乗り越え、今年は4年ぶりに入場予約不要の対面開催に復した名大祭ですが、仮装行列のように第1回以来の企画も残る一方で、2000年以降は古くからの伝統企画が姿を消しつつあるようです。

その中でも最も歴史のあった企画がファイヤーストームです。1960（昭和35）年の第1回から続いてきましたが、2009（平成21）年が最後となりました。

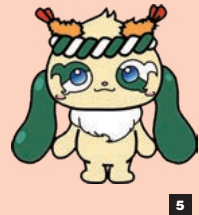
また、1972年に始まった徹夜スケート企画も、2009年から徹夜ではなくなり、それも2014年が最後となりました。徹夜スケートの開始と同じ年に名大祭で開催されるようになった、仮装も自由のユニークな駅伝企画であった山田杯駅伝大会も、2009年で終了しました。

1980年前後からの名大祭の娯楽化を物語る企画に、グリーンフェスティバル（1977年～、当初はグリーンベルトフェスティバル）とアマチュアバンドコンサート（1982年～）がありましたが、これらもそれぞれ2006年、

2002年までとなりました。バンドなどの演奏企画が普通になり、その役割を終えたのでしょうか。

『名大生白書』もその一つです。名大生らしさの発見をめざして1979年に始まったもので、名大祭教養部実行委員会（のち名大祭一・二年生実行委員会）が名大生その他に名大生に関するアンケートを行い、その結果を冊子にまとめて名大祭で配布していました。かねてよりアンケートの簡略化が進んでいましたが、2018年に「白書企画」としてパンフレットに統合され、2019（令和元）年にはそれともなくなりました。

そのほか、2002年から、パンフレットのテーマ説明文が「テーマアピール」というタイトルではなくなりました（その後1回だけ復活）。同年からその年の「テーマキャラクター」の選定が始まり、2019年からは毎年同じものになりました（写真5）。名大祭のテーマ性の希薄化が進んだことの象徴と言えるでしょう。



- 1 2008年のファイヤーストーム。応援団の主催で、第3グリーンベルトで行われていた。
- 2 2013年のスケート企画の様子。大須の名古屋スポーツセンターのリンクを借り切って行われた。
- 3 2002年のグリーンフェスティバル。
- 4 独立した冊子としては最後の『名大生白書』（2017年）。この年から、名大祭本部実行委員会と名大祭一・二年生実行委員会が名大祭実行委員会に一本化された。
- 5 2019年からのマスコットキャラクター「ふりゃあ」。

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に!



■ 在学時の配布物

（学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…）

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

（各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…）

■ 校費による印刷物・刊行物

（冊子、パンフレット、ポスター…）

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集… など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046

Mail nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp